

日本電気 代表取締役会長 佐々木元著「技術と経営の一体化」一言、生産性新聞 2005年1月15日刊を読む

技術と経営の一体化

1. わが国経済の再生、競争力回復へ向けての様々な勢力の過程において、MOT(=技術経営)という概念が市民権を得つつあり、その成果に期待するところ大である。
2. (1)かつて日本が得意とした「高品質・大量生産志向」は、主に自社内完結型の現場第一主義の技術観に支えられていた。
(2)経営面ではシェアを重視した規模の経済によるコストダウンが競争力を生み出した時代であり、市場もそれを求めていた。
3. (1)90年代後半以降、半導体、ICT(情報通信技術)に代表されるエレクトロニクスの領域のみならず、ライフサイエンスや新材料の分野においても、技術の高度化と多様化が一段と加速し、もはや自社内で全てを手がけることは不可能となった。
(2)自社で確保すべき技術と外部から調達する技術の見極めが要求されるようになってきた。
(3)産学官の連携や知的財産権に対する姿勢の変化も、この流れに沿うものである。
4. グローバル競争に直面している現代企業経営においては、基礎的な研究成果が実用化につながらない「死の谷」を乗り越えて、研究開発投資を新製品開発・新事業創造にむすびつけ、事業の発展と利益の極大化をはかることが必要である。
5. 21世紀の科学技術は「技術の社会化」といわれている。日本版MOTが「技術と経営の一体化」として、企業及び大学等教育機関における教育制度として定着することにより、新たな独創的技術立国が実現され、産業競争力の一層の強化につながることを期待する。

<コメント>

NEC 佐々木会長の MOT のすすめ。技術と経営の一体化。MOTこそが企業の将来、日本の将来を決する。